

令和5年度 都農町立都農南小学校 学校評価

評定 「4：期待以上」「3：期待通り」「2：やや期待を下回る」「1：改善を要する」 ※ ( ) は令和4年度

評価項目	評価指標	評価する内容	学校の自己評価結果コメント ○結果の考察・分析 ■改善策等	自己評定	学校運営協議会	学校運営協議会委員評価コメント
学力向上	①「わかる・できる」授業に取り組んでいる。	・学力向上を目指した授業改善の実践。  ・作文指導における作品の投稿 ・新聞を活用した授業実践	○ 全国学力・学習状況調査、みやざき小中学校学習状況調査、標準学力調査等の結果を分析したり、過去の問題に取り組ませる等しながら本校の学習状況を把握し、指導の改善を図った。 ■ 学力の二極化が見られるため、組織的に対応するなどの対策が必要である。 ○ 主題研究を中心にしながら、授業改善を図ってきた。その際、一人一授業を行い、相互参観をするなどしながら、指導方法について協議を行った。 ○ 児童の作文等を新聞に投稿することで、新聞に15点掲載されたり、ラジオで2点紹介されたりするなどの実績を上げることができた。 ■ 学級によって、取り組み方に差があるため、どの学年・学級においても実態に応じて取り組むように啓発を行う必要がある。	保護者 2. 5 (2. 5)	3. 5 (3. 3)	○ 宮崎県が示している「ひなたの学び」や授業改善に取り組んでいるため、学力の伸びが感じられた。 ○ 全職員で、学力調査等の結果分析を全職員とするなど、本校の学習状況を把握して、さらに子どもの学力向上の指導に取り組んでいることに感謝したい。 ○ 学習することの楽しさが味わえる取組があるとよい。タブレットの活用については、使うメリットを子ども達が認識した上で、使用できるとよい。 ○ これからも児童の作品を新聞やラジオに投稿して、南小の児童の成長ぶりを発信して欲しい。 ○ 児童の作文が新聞に掲載されると、地域の方々に喜んでいただけるので嬉しく思っている。
	②図書館を利用した読書活動に取り組んでいる。	・読書指導 ・読書量 ・図書室管理	○ 選書のための投票や運動会の時期に「ブックリレー」「読書で玉入れ」などの取組を行うことで、読書への関心・意欲を高めることができた。また、職員による読み聞かせも実施した。 ○ 都農町立図書館との連携を図りながら、読書に親しむ機会を作ることができた。 ○ 都農町の図書支援員の協力を得ながら、図書館の環境整備を進めることができた。 ■ 読書への関心に学級差や個人差があるため、学級や個人の読書量を把握し、個別に声かけを行うなどを行いながら、読書に親しむ環境を整えていく必要がある。	児童 3. 3 (3. 5)		
	③児童は、家庭学習に取り組んでいる。	・頑張りカードの結果(学期1回) ・家庭学習(宿題・自学)	○ 教務部や学習部を中心に 全体の家庭学習の内容や量について把握し、各学年間で調整を行った。 ■ 家庭学習への取組に差があり、宿題の量を調整したり、個別に指導を行ってきたりした。今後も指導の継続が必要である。	職員 2. 3 (2. 9)		
	④授業でのタブレットの活用に取り組んでいる。	・タブレット端末の授業での活用 ・校内研修 ・保護者への啓発 ・町が配付している家庭用端末	○ タブレットの機能を生かしながらワークシートとして活用したり、話合いのツールとして活用したりする等学習の中に積極的に取り入れている。 ○ タブレットを活用しながらドリル学習を行うなど、個別最適な環境で学習に取り組ませることができた。 ○ 都農町が作成した「タブレット端持ち帰りの手引き」をもとに、関係職員で話し合い、持ち帰りの環境を整えつつある。 ■ タブレット端末の持ち帰りを進め、不登校傾向児童に対するオンラインによる授業提供や台風等災害時の学校と家庭を繋ぐツールとしての活用を推進していく必要がある。			
豊かな心の育成	①生徒指導・特別支援教育について、組織的な対応に努めている。	・あいさつ運動 ・特別支援教育 ・SC・SSW等の活用・連携	○ 計画委員会を中心に、あいさつの活性化を図っている。あいさつの木を作成し、あいさつの観点を明確にしたあいさつの実の掲示を行っている。 ○ 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援学級4クラスが連携しながら児童への支援を行っている。 ○ SC・SSWの積極的な活用を図りながら、心理的なサポートや福祉的な支援を行っている。児童だけではなく、保護者との相談や支援を行っている。 ■ あいさつに関しては、家庭や地域でのあいさつが不十分である。継続的な指導が必要である。	保護者 3. 3 (3. 1)	3. 5 (3. 6)	○ 校区内を巡回しているが、最近はいいさつの声が大きくなっている。特に、朝の見守り時のあいさつがよい。 ○ あいさつは、大人の方から積極的に行う必要がある。大人からあいさつをすることで、「あなたの行動をしっかり見ていますよ」というメッセージにつながり、声かけ事案の防止にもなる。 ○ 気軽に声をかけることができるような地域づくりができるとよい。
	②人権教育の常時指導に努めている。	・学校生活全般(全教科指導) ・校内研修	○ 始業式や終業式での校長の話や集会時の人権教育担当の話の中で、人権教育に関する内容を取り上げ、児童に啓発を行った。 ○ 参観日に全クラスにおいて人権に関する授業を行い、児童及び保護者に啓発を行った。 ■ 人権教育に関する研修の充実を図り、職員の人権感覚を磨いていく必要がある。	児童 3. 4 (3. 5)		
	③いじめの未然防止と早期発見に努めている。	・教育相談の実態(心のアンケート)	○ 毎月1回心のアンケートを実施し、それをもとに教育相談を実施している。更に全員を対象とした教育相談を実施する時間の設定を行った。 ○ いじめ事案等に対して、管理職も含め組織的に対応を行うことができた。 ■ サポート委員会(いじめ・不登校対策委員会)を毎月実施し、常に全職員で情報共有を行っていくようにしていく必要がある。	職員 2. 5 (3. 2)		
体力向・健康増進	①規則正しい生活リズムを確立するための的確な指導を推進している。	・すこやか週間 ・親子歯磨き週間 ・学校保健委員会(教育講演会)	○ すこやか週間や親子歯磨き週間を設定することにより、児童自身や保護者に対して、規則正しい生活リズム等、健康教育への啓発を行うことができた。 ○ 学校保健委員会において、外部講師を招き、命を大切にすることについて啓発を行うことができた。 ■ むし歯の治療率が12月の段階で56%であり、治療率向上を目指す必要がある。	保護者 3. 3 (2. 5)	3. 9 (3. 2)	○ 早寝・早起き・朝ご飯の合い言葉を、児童と保護者が共有すると規則正しい生活が定着すると思う。このことについて、これまで以上に学級通信等で周知して欲しい。 ○ むし歯治療率について、データの精査が必要である。 ○ 登校中の決まりについて、見守り隊等にも周知してもらえれば、指導に生かすことができる。
	②感染症や病気の予防を理解するための的確な指導を推進している。	・感染症に関わる日常指導	○ 日常的な手洗い・消毒・換気の呼びかけを行い、感染症対策を行った。 ○ 保健室前の掲示資料を活用したり、放送で呼びかけを行ったりするなどの啓発を行った。 ■ 寒い時期の換気に学級差があるため、暖房を活用しながら換気の徹底を行い、感染	児童 3. 3 (3. 4)		

	③命を大切にすための安全教育についての確かな指導を推進している	・避難訓練 ・登下校の様子 ・地域での過ごし方	症対策を行うなど、組織的な対応が必要である。 ○ 警察署や消防署など、外部機関と連携した避難訓練を実施することができた。 ○ 警察署から講師を招いた職員向けの研修を行うことで、判断力や実践力の向上を図ることができた。 ○ 登下校の様子や地域での過ごし方に関する情報を把握し、改善が必要な場合は、放送や集会等で適宜指導を行った。 ■ 他県での震災被害状況等を念頭に置きながら、常在危機の意識を高め、組織的に対応できる体制の強化に努めなければならない。	職員 2. 5 (3. 0)		
地域連携	①地域資源を可能な範囲で活用し、キャリア教育を推進しながら地域との連携を図っている。	・地域学校協働本部との連携 ・校外学習（地域学習）	○ 昨年度に引き続き、地域で守りたい宝について二つの視点を提示し、学校運営協議会で熟議しながら、実践することができた。 ○ 各学年の実態に応じて、地域素材（人、もの、こと）を活用しながら、地域学習の充実を図ることができた。 ■ 学校運営協議会において協議してきた内容の継続・発展と、新たな視点による熟議そして、実践に繋げていく必要がある。	保護者 3. 2 (2. 9)	3. 9 (3. 2)	○ 学校は、学校だよりやホームページなどで常に情報発信を行っている。 ○ 回覧板で、学校だよりが回覧される取組がよい。 ○ 毎月の学校だよりで、南小の様子が手に取るように分かる。
	②各種便りや学校のホームページを活用して家庭や地域に情報を発信している。	・連絡アプリ tetoru や学校ホームページの活用 ・学校からの情報発信（学校及び学年・学級便り）	○ 連絡アプリ tetoru を活用し、必要な情報を適宜発信した。また、学校運営協議会委員にも連絡アプリ tetoru の登録を依頼し、学校の情報を共有することができた。 ○ 学校行事や学習の様子をホームページで積極的に発信することができた。 ○ 学校便りを月1回発行することで、保護者や地域、関係機関に学校の様子を発信することができた。 ○ 児童の作文や行事の様子等を新聞に投稿し、多数掲載することができた。 ■ 全職員が、情報発信を行うことができる体制を整える必要がある。	職員 2. 5 (3. 0)		
学校運営への参画（職員）	①組織の一員として、同僚の職員と連携・協働しながら学校運営に積極的に参加している。	・校務分掌 ・学校行事 ・PTA 活動	○ 終礼や企画会、職員会議等で協議しながら、全職員で学校経営ビジョンの具現化に努めた。また、校務支援システムや職員室モニター掲示板の活用を図ることで、情報共有の機会を広げることができた。 ○ P T A 活動を再開する部が出てきており、少しずつではあるが活発化しつつある。 ■ 校務分掌等の業務の平準化を図り、業務負担	職員 2. 5 (3. 1)	3. 5 (3. 0)	○ 全職員で学校経営ビジョンの具現化に努められていることがよく分かる。 ○ 職員の働き方改革を進めていくためには、リフレッシュデーなど統一した取組が必要である。
	②勤務時間を意識した効率的な業務の遂行と自己のキャリアプランをもとにした自分の教職人生や働き方を見通している。	・キャリアプラン ・自己啓発を含めた研修と修養	○ 毎週金曜日をリフレッシュデーにしたり、退庁時刻の目安を示したりすることで、勤務時間の短縮を図ることができた。 ○ 年度当初に、研修受講の積極的参加を呼びかけることで、全職員が各種研修に参加することができた。 ■ 職員のキャリアプランについての研修を行うなど、それぞれのキャリアプランや働き方について更に考えを深化させる必要がある。			
	③人権感覚を意識した態度や行動を心がけている。	・教育活動における言動	○ ハラスメントに関して、児童や職員に対してアンケートを実施するなどハラスメントの実態把握と啓発に努めることができた。 ○ 職員に対して、コンプライアンスに関する情報を適宜発信したり、コンプライアンス標語の作成及び掲示を行うことで法令遵守の意識向上に努めた。アンコンシャスバイアスの研修を受講し、人権感覚を意識した態度や行動ができるような学びができた。 ■ コンプライアンスに関する事案が起きないように、継続的な取組が必要である。			
学校運営への参画（PTA）	① P T A の一員として、できる限り学校運営に参画している。	・運動会への協力 ・参観日(懇談会) ・家庭教育学級	○ 運動会の前日準備や当日の準備・運営・片付けにはたくさんの保護者の方が参加してくださり、とてもスムーズな運営ができた。 ○ 家庭教育学級では、町内の工場見学を行うことができた。 ■ 懇談率が低い。保護者への啓発、職員への懇談会の在り方についての研修等を行い、懇談率アップにつなげなければならない。	保護者 3. 0 (2. 9)		○ 運動会前日準備、当日の運営、片付け、奉仕作業等、南小学校の P T A 活動の協力体制は伝統である。 ○ 懇談会参加率が低いのは、関心が低いのではなく、事情があるのではないか。兄弟での重なりや小中学校での重なりがないよう調整していく必要がある。
	②都農南小が今以上に発展できるよう、できる限り協力している。	・ P T A 環境整備の日(年3回実施) ・ P T A 専門部会	○ 環境整備（奉仕作業）で、運動会へ向けて運動場整備、中庭再生のための除草作業等を行っていただいた。 （第1回環境整備の日参加者数：約50名、第2回環境整備の日参加者数：約70名） ○ 運動会の前日準備において、各専門部会で分担して準備を進めることができた。それ以外の活動は、部によって差はあるものの少しずつ活動が再開されつつある。 ■ P T A 執行部を中心とした各専門部会の活動の活性化を図っていく必要がある。			

【次年度の取組について】

- 今年度の学力調査の結果の分析を活をもとに、今年度から本校の学力向上に向けての対策を講じていく必要がある。（授業改善・ICTの効果的活用・家庭学習への取組等）
- 「あいさつ・言葉遣い等人権教育の充実」「いのちを大切にする教育の推進」「SC、SSW、福祉課等関係機関との連携の充実」を図る必要がある。
- 学校運営協議会の充実を図りながら、地域とともにある学校の更なる推進を行う必要がある。今後、地域における防災の在り方についても協議していく必要がある。
- P T A 執行部を中心とした各専門部会の活動の活性化を図っていく必要がある。